

11/5

Tue

個人型 小椋裕太 (高森南小学校)

共同研究者 谷塚光典
(信州大学 教授)

主体的で対話的な学びが生まれる 環境づくり

「勉強が嫌だ」「学校がこわい」、昨年4月に聞いたそんな思いをどうにかしたい、一人一人が安心して学ぶ楽しさを感じることができる学校でありたいと考えました。「今日は成長できた」「また明日」と思いながら下校する子どもたちでいてほしいという願いを強く抱き、昨年度から本校で学級担任をしています。4月に「一人も学びからそらさない 30人 笑顔の卒業式」という文字を教室に掲示しました。子どもたちそれぞれには、できるようになりたい気もちやわかるようになりたい気もちがあります。多様な子どもたちと出会い、真っ先に伝えたことは「聴く」ことを大事にするということでした。

2組の学びは、「聴く」ことから始まる「対話」を軸にしています。教え合うのではなく、聴き合うことを意識することで、相手の思いに寄り添い支え合う関係ができ、日常生活でも学習の場面でも個の力を伸ばすからです。上下関係ではなく、対等な関係を築くことで、困り感を伝え合うことに対して安心感が生まれます。聴くために、学習の形や教師の居方、学び方などの工夫を行っています。苦手なことや得意なこと、興味や関心ごとは一人一人ちがうからこそ、共に学ぶなかまに関心をもち、かかわり合うことで子ども同士がつながり、個の世界が広がっていくのだと感じます。毎日の生活記録には、「〇〇さんがわからないところを丁寧に教えてくれてうれしかった」「困っていることを聞いて、グループで話しができたからわかった」「困ってだまっていたとき、どうしたの?と声をかけていた〇〇さんがすごいと思った。次はわたしが声をかけられるようにしたい」など、他者とのかかわりをうれしく感じ、自分の行動をふり返る文章が増えました。共に学ぶことができ、安心感のある環境をこれからも大切にしていきたいです。

研究発表当日は、体育「ネット型ボール運動」を予定しています。子どもたちが運動の本質的な楽しさを感じながら、チームでの活動を通して、主体的で対話的な学びが生まれる環境づくりを試行錯誤し、学びが深まる瞬間のある授業に出会えるように今後も研究を進めていきたいです。



共同研究者 谷塚先生から

6月某日、6年2組の教室には、算数が得意な児童も苦手な児童も分数を使った割合の問題の解き方を伝え合い聞き合う姿があり、各グループでの語り合いに耳を傾け見守る小椋先生のあたたかいまなざしがありました。体育に苦手意識のある児童も安心してボール運動を楽しむ授業づくりと学級づくりを参会者のみなさんと共有したいと思います。



～日程～

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 受付 | 13:10～13:25 |
| ② 開会式 | 13:30～13:40 |
| ③ 研究説明 | 13:40～13:50 |
| ④ 公開授業 | 14:00～14:45 |
| ⑤ 授業研究会 | 14:55～15:35 |
| ⑥ ワークショップ | 15:45～16:35 |
| ⑦ 閉会式 | 16:35～16:45 |